

給油艦や自衛隊を出すことが国際貢献？

イラク・アフガニスタンの援助の現場から

JVC長谷部貴俊さんの講演を聞いて



先日国会の会期再延長が決定し、与党はなんとかでもインド洋での海上自衛隊の給油活動を再開させようと必死になっています。また、これに反対する民主党は給油活動を行う代わりに、国連の枠内で民生支援を行うべきだと言っています。

憲法9条に反し、戦争の後方支援を行う自民党案にはもちろん反対ですが、民主党の案はそれに比べればずっと良さそうな気がします。しかし、アフガニスタンの情報が少ないため、これらの議論はアフガニスタンの現状をわかっていない議員によって行われるっており、私たちもまたアフガニスタンの現地のことはよくわからないというのが実状ではないでしょうか。

そのようななか、今回のNPO・JVC(日本国際ボランティアセンター)の長谷部さんの講演では、アフガニスタンの現地情勢のことやアフガニスタンの人々のために何をすればいいのかというたいへんためになるお話を聞くことができました。長谷部さんは、JVCのスタッフとして、2005年から5度に亘りアフガニスタンの現地に入り、医療、教育、安全な飲料水の確保などさまざまな面からアフガニスタンの人々の生活を支援してきました。アフガニスタンは長い内戦のために国が荒れてしまっており、汚染された飲料水や低い医療水準のため簡単な病気や下痢で非常に多くの人が命を落としてしまっているそうです。4人に一人の子供たちが五歳未満で亡くなっているというのを聞きとても驚きました。また、それと同時にまだまだ支援が必要であると感じました。しかし、アフガニスタンの治安は悪化する一方だということです。米兵による民間人の誤射が相次ぎ、反米感情

が高まっているため、外国人はアメリカの手先という一つのカテゴリーで捉えられてしまい、街中を出歩くことさえも危険な状況になっています。

幸いなことに、日本はアフガニスタンの人々には平和的に思われているそうです。日本の戦後復興とアフガニスタンの戦後復興を重ねてみられ、また同じアジアの間としてみられるためです。この日本の中立的な良いイメージは自民党案の給油活動を行いアメリカの支援をすることや陸上自衛隊をアフガニスタンへ派兵することとで損なわれてしまう恐れがあります。また、民主党が提案するPRT(軍による警護付きの文民派遣)の援助活動は軍と文民支援の境を不明瞭にしてしまい、NGOなどの安全を脅かしてしまっています。国境なき医師団は米国に協力する団体であるという筋違いな理由でテロの標的にされました。それと同じような事件が再び起きてしまうかもしれません。

では、日本ができる最善の方法はなにかというと、それは文民による復興支援のほかありません。あまり報道されませんが、アフガニスタンでは対話に向けた動きもあるそうです。この出口の見えない対テロ戦争を終わらせるには平和憲法を持つ日本が平和に向けてイニシアチブをとっていくことが必要であり、また、日本は軍事力による国際貢献を行う国にはできない和平交渉の役割を担うことができているのではないかと思います。日本はアフガニスタンの実状を見ることなしに、ただアメリカに追従していくのではなく、しっかりと現場の声を聞きアフガニスタンの人々がほんとうに必要なとしている支援を行っていく必要があるのではないのでしょうか。

伊豆

治安支援を目的にアフガニスタンに派遣されたISAF(国際治安維持軍)が、米軍の肩代わりをするかのように対テロ掃討作戦を担っている現実。さらにNATO/ISAF管轄のPRT(地域復興支援グループ)までもが人道復興支援の装いのもとで、タリバンを相手に大規模な戦闘を展開しているという現実はきわめて重い。もし、日本が自衛隊であれ文民であれPRTに日本人要員を派遣すれば、日本のNGOとして今まで築いてきた住民との信頼関係が大きく損なわれ、これまでに以上に襲撃の危険に晒されることになる。

JVCパンフ「軍が平和をつくるんだって?」より